

平成20年度 学校自己評価システムシート (県立越谷南高等学校)

| | |
|--------|--|
| 目指す学校像 | 「知・徳・体」の調和と、個における「文武両道」の精神を求め、社会の一員として自己実現を図ることのできる生徒を育成する学校 |
|--------|--|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒個々の能力を伸ばし、確かな学力を支える授業等の工夫・改善 2 進路実績の量的・質的向上 3 生徒指導を基盤とした学校への帰属意識の高揚と生徒の自負心（自信と誇り）の育成 4 開かれた学校づくりの推進 |
|------|--|

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|----|
| 出席者 | 学校関係者 | 4名 |
| | 生徒 | 2名 |
| | 事務局(教職員) | 7名 |

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学校自己評価 | | | | | 年度評価 (2月20日現在) | |
|--------|--|---|---|--|---|-----|
| 年度目標 | | | | | 年度評価 (2月20日現在) | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 |
| 1 | 高い理解力を持った生徒が入学しているものの、学習習慣が確立されていない生徒もおり、学力を充分伸ばせていない。教科ごとに授業改善に取り組む、生徒全体に学力向上の取組を働きかけることが課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> 1, 2年生に対する自主学習の支援（学習習慣の確立） 授業理解度の向上 特に進学に向けた科目の学力向上への取組 外国語科の特徴を活かした取組 | <ul style="list-style-type: none"> 「学びの手引き」の活用 家庭学習時間確保への取組 授業公開週間の設定による授業内容の充実 教科会を研修の場とする授業改善の取組 学習状況等の調査による生徒の学習実態の把握 「スタディサポート」の活用による個々の弱点の明確化 英語検定受験等の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 学習状況等の調査における自主学習時間 学習状況等の調査における授業の理解度 実力テストの偏差値 大学入試センター試験での各教科・科目の平均点と全国平均点との得点差 外国語科生徒の英語検定2級取得者数 | <ul style="list-style-type: none"> 自主学習時間は漸増している。夏季休業中に減少する。 授業の理解度は、漸増しているが理数系の理解度が低い。 実力テストの偏差値は、入学時から低下するが、3年次になりやや回復する。 センター試験は全国平均に達せなかったが、数I Aで平均点を突破した。 英語検定2級以上の取得者数は、第2回終了時に26名が取得し、昨年を上回った。 | C |
| 2 | 進路面での取りかかりが遅く、最終的に目標を下げる生徒がいる。早い段階から意識付けを行い、高い目標設定の維持と粘り強い努力による進路希望の実現が課題である。また、外国語科の特色を生かした進学実績の更なる向上が課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> 進路意識の高揚（ガイダンス機能の充実による進路目的の明確化） 進路指導部と各教科・分掌・学年との連携 進学実績の質的・量的向上 | <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間等を活用した学問研究の実施 「進路の日」の設定（外部講師（大学教授）の講義） オープンキャンパスへの参加の奨励（1・2年次より） 「進路通信」の発行による最新情報の提供 計画的・組織的な補習の実施（2年次後半より）による学力の定着 進路指導部による個別相談の充実 | <ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスの参加状況 「進路通信」の発行回数 補習の開講講座数と開講回数 国公立・難関私大への現役合格（40名以上） 外国語を生かせる上級学校への進学 卒業生の満足度 | <ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスには1, 2年で全員参加させた。状況は進路通信等で紹介した。 「進路通信」は各学年できめ細かく発行した。 進学補習は、生徒の進捗や志望状況等に応じ、きめ細かく実施した。 国公立大5名、難関私大27名が合格した。（2月10日現在） 外国語を生かせる上級学校へ外国語科生徒39名中11名が合格した。 卒業生の満足度は3月に調査予定である。 | A |
| 3 | 本校は、確固たる生徒指導の方針が、地域や保護者から高い評価を得ている。今後は更に文武両道の精神に基づいた学校への帰属意識を高めるとともに、生徒自らの自負心を育むことが課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> 規律ある生活態度の維持 社会性及び自主・自律性の育成 学校への帰属意識の高揚 生徒の自負心の育成 | <ul style="list-style-type: none"> 継続的な遅刻・整容・交通安全・通学時のマナー指導等の維持 部活動を通じ他の模範となる生徒の育成 集会時の校歌斉唱の実施 部活動の成果報告と互いに誉め讃え合う機会の設定 | <ul style="list-style-type: none"> 地域社会からの評価 3年間部活動に取り組んだ生徒は63.7%で昨年より減少した。 「文武両道賞（校長賞）」の年間受賞者数 部活動の成果報告の件数、表彰・壮行会の実施回数 | <ul style="list-style-type: none"> 地域社会からの評価は、概ね良好。 3年間部活動に取り組んだ生徒は63.7%で昨年より減少した。 文武両道賞は、3年生の受賞者が増加した。 表彰回数は5回、壮行会は3回行った。表彰件数は団体で32件、個人で92件である。 | B |
| 4 | 現在は、地域から安定した評価を受け、比較的高い入試志願倍率を保っているが、今後5年間でレイクタウンが整備され、周辺環境が一変する。保護者、地域、地元中学校等との連携を更に深め、開かれた学校づくりを一層進めることが課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> 外部評価の的確な把握 教育活動の取組の積極的な情報発信 P T A 理事会との連携・協力 地域とのさらなる連携 | <ul style="list-style-type: none"> 学校評価懇話会を通じた地域、中学校、大学、同窓会、保護者代表等からの本校への要望、評価等の把握 P T A ・学年別情報交換会の取組の充実 中学校訪問、学校説明会、学校見学会等を通じた中学生と保護者への教育方針の周知・徹底 授業公開の実施（中学校関係、地域への公開も視野に） ホームページの定期的更新と掲載内容の工夫・改善 地域でのボランティア等体験活動の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 学校評価懇話会の実施回数 中学校訪問・学校説明会 学校見学会の実施回数と説明者数 P T A 理事会における保護者の声（評価） 授業公開の実施回数 ホームページの内容の充実度 地元川柳地区でのゴミ拾い等のボランティア活動参加者数 | <ul style="list-style-type: none"> 学校評価懇話会を3回実施した。 夏季休業中に44校中学校を訪問した。8月の学校説明会には、2,167名が参加した。 11月・12月の学校見学会には1,248名の中学生・保護者が参加した。 保護者の声は3月にP T A 理事会において調査予定である。 授業公開を年2回実施した。 学校ホームページを月1回程度更新した。 ボランティア活動は地元の要請もあり、今年度は人数を絞って行った。参加者69名、通学路を清掃し、充実した活動であった。 | B |

| 学校関係者評価 |
|--|
| 実施日 平成21年2月20日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 |
| <ul style="list-style-type: none"> 目標を達成できている項目もあるが改善すべき点がある。 勉強の方法を教え、それを行った結果、どのような効果が得られるかを説明することが必要である。 家庭学習等、勉強をする習慣を身につけさせることが必要である。 常に生徒の質問に答えられる環境づくりが大切である。 学習の効果を上げるためには、グループ学習が効果的である。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ほぼ全ての項目で目標を達成している。 大学入試に対する意見や質問を保護者からも聞くことが必要である。 学校からの配布物は必ず保護者に見せるように指導することが大切である。 進学することの目的を考えさせることが大切である。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 概ね目標は達成しているが、改善すべき点がある。 他校と比較すると本校の生徒指導は高いレベルにある。 学習以外の活動を充実させることも重要である。 表彰は、表彰基準を下げて多くの生徒を表彰した方がよい。 |
| <ul style="list-style-type: none"> 概ね目標は達成しているが、改善すべき点がある。 保護者の意見を聞くアンケート調査結果を、P T A ・後援会総会時に報告してほしい。 地域との連携を図るためには、学校の情報をどのように伝達するかのルールづくりが課題である。 |